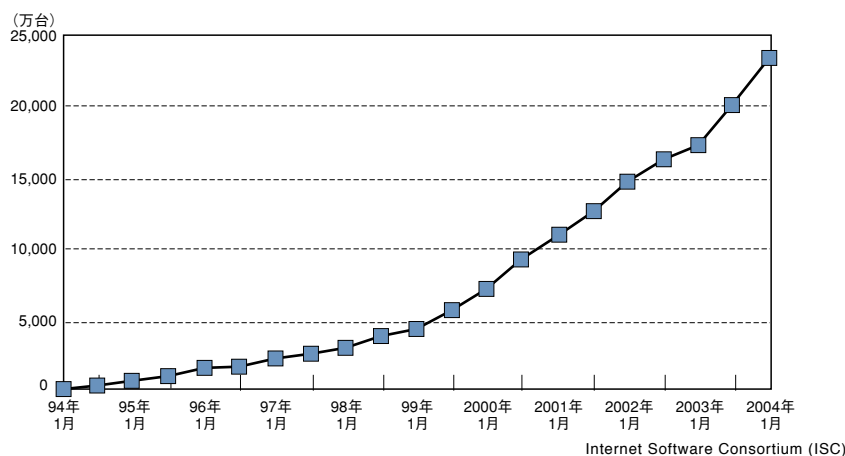


## 10年間で100倍以上に増えたインターネットのホストコンピュータ数

資料9-3-1 ホストコンピュータの推移



ISCでは、1987年から毎年1月と6月の年2回、ドメイン調査を行っている。「ホスト」とは、名前が付けられているコンピュータの数で、サーバーやダイヤルアップ用も含まれている。1994年1月の221万7,000台に対して、2004年1月のホスト数は2億3,310万1,481台。1998年から調査方法が変わったため単純比較はできないが、この10年間で100倍以上に増加した計算になる。

## IPv4アドレス割り当ては米国が約70%に達する

資料9-3-2 IPv4アドレス国別割り当て数

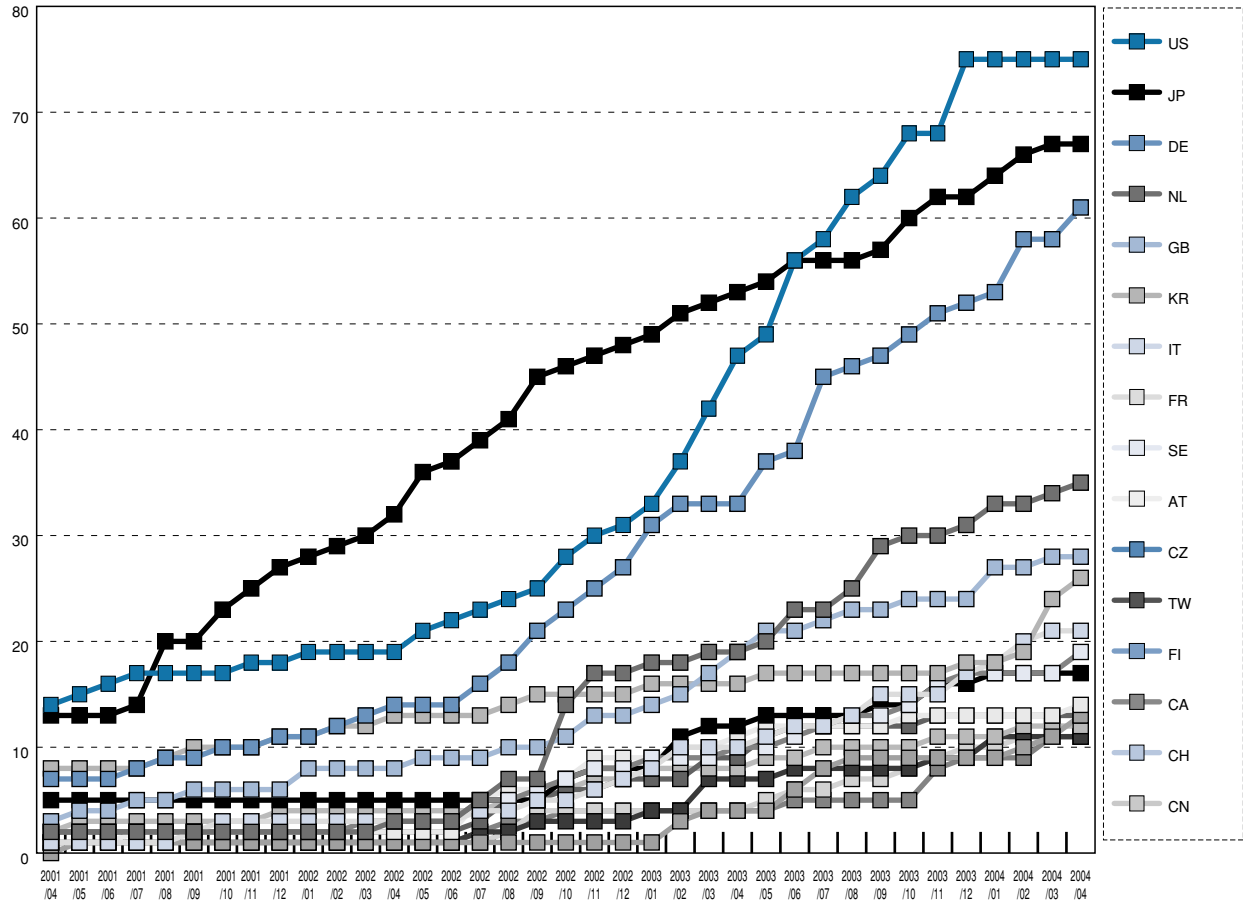
順位	CC	国名	合計IP数	割合
1	US	アメリカ合衆国	1,246,274,560	66.90%
2	JP	日本	103,830,016	5.57%
3	CA	カナダ	62,013,952	3.33%
4	GB	イギリス	50,894,080	2.73%
5	DE	ドイツ	48,699,648	2.61%
6	FR	フランス	37,210,112	2.00%
7	CN	中国	30,719,744	1.65%
8	NL	オランダ	28,527,872	1.53%
9	KR	韓国	26,208,768	1.41%
10	UK	イギリス	26,112,000	1.40%
11	AU	オーストラリア	23,090,944	1.24%
12	IT	イタリア	14,213,120	0.76%
13	SE	スウェーデン	13,274,624	0.71%
14	TW	台湾	11,892,992	0.64%
15	BR	ブラジル	10,902,784	0.59%
16	CH	スイス	10,155,520	0.55%
17	ES	スペイン	9,752,320	0.52%
18	NO	ノルウェー	8,471,040	0.45%
19	ZA	南アフリカ	8,154,880	0.44%
20	FI	フィンランド	7,926,016	0.43%

出所 サイバーエリアサーチ株式会社 (2003年4月)

インターネットは米国から始まったものではあるが、IPv4アドレスの割り当てが大きく米国に偏っていることは誰の目にも明らかである。たとえば米国の大学は、当たり前のようにそれぞれクラスAのアドレスブロックを割り当てられている。これが欧州やアジアにおけるIPv4アドレス枯渇への危機感を醸成する1つの原因となっている。現実には、日本でも、企業や教育機関が新規にまとまったアドレスを取得するのは非常に困難な現状がある。これは通信関連事業の円滑な展開の妨げともなっている。

## 2003年夏から本格的な実用段階に入り始めたIPv6

資料9-3-3 世界のIPv6アドレス割り当て推移

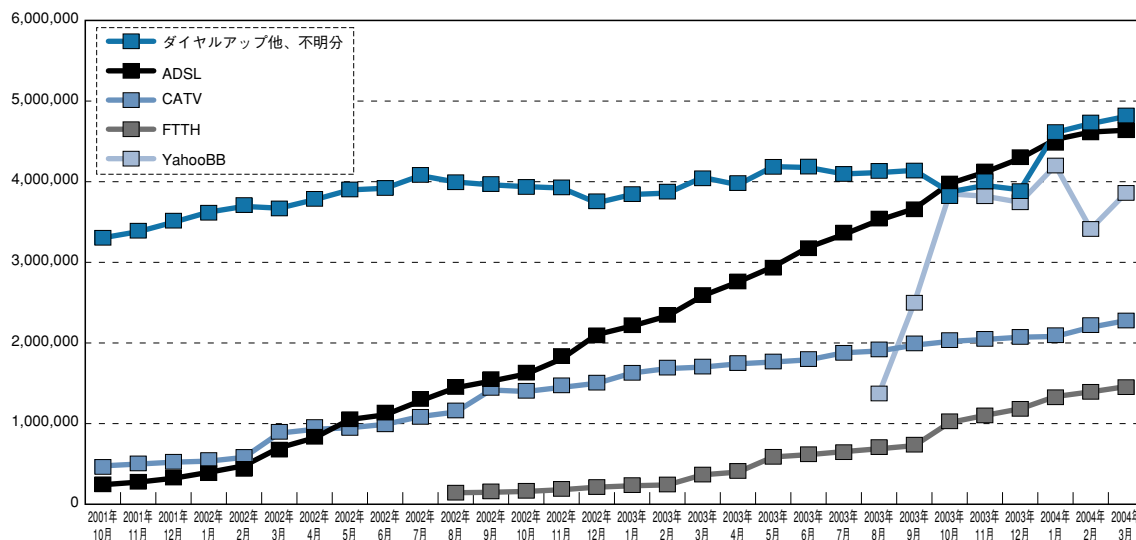


出所 株式会社インテック・ネットコア作成

IPv6の研究や実験は、これまで日本が中心になって進められてきた。主要国のIPv6アドレス割り振り件数の推移を示すこのグラフからも、そのことがよくわかる。しかし2003年7月、米国が割り振り件数で日本を抜きトップになった。これは、米国がIPv6に本腰を入れ始めたことを示すと同時に、IPv6が実験段階から本格的な実用化の段階に入ったことを表すものと考えていい。

### 接続環境の主流はダイヤルアップからブロードバンド常時接続へ移行

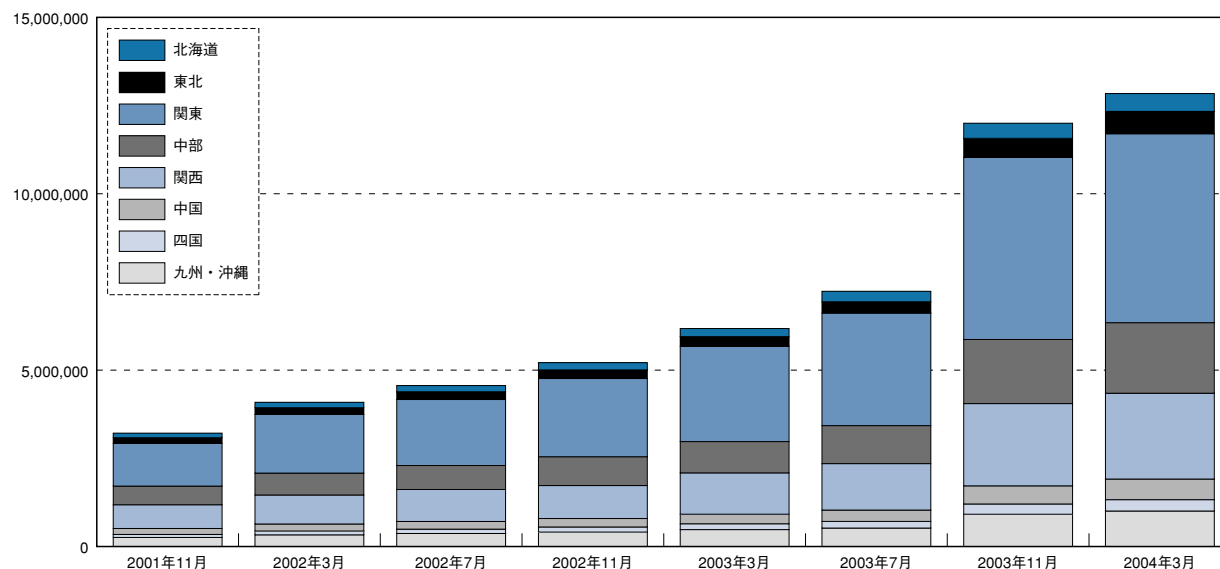
資料9-3-4 回線別 IPアドレス数の推移



出所 サイバーエリアリサーチ株式会社

### IPアドレスは人口に比例して増加

資料9-3-5 地域別 IPアドレス数の推移



出所 サイバーエリアリサーチ株式会社

国内ISPが使用するIPアドレスを回線種別別に集計したこのグラフは、ダイヤルアップから常時接続への接続環境の移行を示している。中でもADSLの躍進が著しく、特にYahoo!BBは2003年秋にほかのADSL回線の合計とほぼ同数のIPアドレスを確保するまでに急増。なお、「ダイヤルアップ他」には分類の難しいIPアドレスが含まれており、ダイヤルアップ単独では減少している。資料9-3-5は国内ISPが使用するIPアドレスの数を地域別に集計したもの。IPアドレスは人口に比例して増加していることがわかる。

注1) 2003年8月よりYahoo!BB単独のIPアドレス数の集計を始めたため、グラフ中にはそれ以前のデータがプロットされていない。なお、Yahoo!BBは、2001年9月から商用サービスを開始している。

注2) 「ダイヤルアップ他」には、今回分類されていない回線と回線を判別できなかったものも多数含まれている。



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)